

Thonik Exhibition “en”

2009 年 12 月 15 日（火）～29 日（火）

スパイラルガーデン（スパイラル 1F）

オランダの気鋭デザインスタジオ、Thonik(トーニック)日本初の展覧会



Shanghai Art Museum (2008)

スパイラルは、オランダ有数のグラフィックデザインスタジオ、Thonik(トーニック)による展覧会『Thonik Exhibition “en”』を、2009 年 12 月 15 日（火）～29 日（火）までスパイラルガーデン（スパイラル 1F）で開催します。

デザインユニット Droog Design(ドローグデザイン)や建築家 MVRDV など、現在、オランダのクリエイティビティは世界から注目を集めています。そのデザインは、自由で挑発的、そしてユーモア溢れる批判精神が特徴です。今回ご紹介する Thonik(トーニック)は、オランダ国内はもとより、世界からも注目を集める気鋭のデザインスタジオです。ある一定のルールに従ったモジュールのようなグラフィックによるロゴや CI のデザイン、そしてグラフィックのルールをベースにユニークかつ斬新なアイデアで、本国オランダの社会党 (SP) に代表されるような、プロジェクト全体を包括する立体的なコミュニケーションデザインを得意としています。彼らは 2008 年 5 月、上海美術館にてアジアで初めての個展を開催、そして同年 9 月にはヴェネチア建築ビエンナーレのヴィジュアル・コミュニケーションを手掛けました。

日本で初めての個展となる本展では、スパイラル 1F のギャラリースペース、カフェスペースの両方を合わせた、空間全体を変容させるダイナミックなインスタレーションを展示します。また、彼らが東京のカルチャーで特にインスピレーションを受けたという「食」にフォーカスした仕掛けも展開。過去に制作されたグラフィックのアーカイブや、CM やウェブサイトなどの媒体を横断したコミュニケーションで、ひとりひとりメッセージを発信する“viral movie”など、コミュニケーションデザインのアーカイブもご紹介します。

展覧会タイトルにある“en”は、オランダ語で“～と(and)”の意味。日本語の「縁」という言葉から発想を得たものです。デザインを通じてダイレクトなコミュニケーションを仕掛ける Thonik の世界を体感してください。

Thonik は、スパイラル 25 周年アニバーサリーイヤーの、ロゴをはじめとするアイデンティティを手掛けています。アートを通じて巡り合ったひとつひとつの「縁」に始まる「宴(en)」、「演(en)」、「艶(en)」。

スパイラルは、皆様と様々な“en”を共有していきます。

掲載や取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

◆スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 清水さえみ、加藤美穂、四元朝子（よつもとともこ）

TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848 〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23

E-mail press@spiral.co.jp WEB <http://www.spiral.co.jp/>

開催概要

展覧会タイトル: **Thonik Exhibition “en”**

会期: 2009 年 12 月 15 日(火)～29 日(火)

会場: スパイラルガーデン(スパイラル 1F)

時間: 11:00～20:00 無料

主催: 株式会社ワコールアートセンター

企画制作: スパイラル

後援: オランダ大使館

Thonik (トーニック) profile

1993 年に設立された、グラフィックデザインを用いたヴィジュアル・コミュニケーションを得意とするデザインスタジオ。意味を最小限に抑えたクリアなコンセプトを、クリーンでヴィヴィットな色の組み合わせと、力強いデザインを伝えるのがトーニックのスタイルである。メディアの間を行き来する冒険的なコミュニケーションのアプローチや、PRキャンペーンを発展させた手法で、カルチャーシーンのみならず、政治的、社会的、様々なフィールドで活躍している。VI(ヴィジュアル・アイデンティティ)を手掛けた主な仕事に、ユトレヒト美術館、ヴァン・ゴッホ美術館、アムステルダム市、オランダ社会党(SP)、ヴェネチア・ビエンナーレ建築展などがある。



これまでの主な仕事

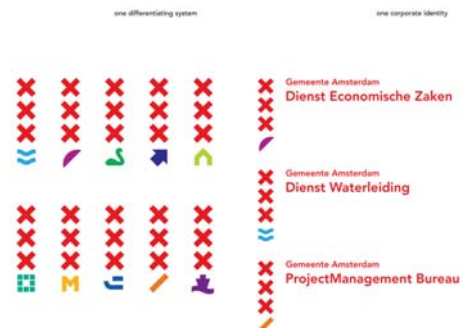
I、Central Museum in Utrecht Since 1996

ユトレヒトにあるセントラル・ミュージアムは 1838 年に設立された、オランダで最も歴史の古い市立博物館である。歴史的巨匠の作品、モダンアート、デザイン、ファッション、ユトレヒト市の歴史の 5 分野にわたる幅広い芸術コレクションを所蔵している。5 分野のコレクションを持っていることから、5 つの C を組み合わせたロゴをデザインした。その C をバイキングの目に見立てたり、変形した O として使ったり、耳をつけてディックブルーナハウスのメインキャラクターであるミッフィーにしたり、幅広く応用され、10 年以上に渡って使われ続けている。



II、City of Amsterdam Since 2000

アムステルダム市のコーポレート・アイデンティティの刷新。55 もの部署がそれぞれ統一性のないロゴやデザインを使用していたのを改め、システム化した。アムステルダム市のロゴをひとつに、赤いクロスが3つ。16 色に限定された色を使って、それぞれの部署に簡潔なアイコンが添付される。この赤はアムステルダム・レッドと呼ばれ、アムステルダム市に関わる事業では必ず用いられる。



III、SP Since 2005

SPは、Social Party の略称で、オランダ社会党である。以前彼らの抗議方法がトマトを投げつけることであったことから、トマトをモチーフに様々な PR 活動を展開した。グラフィックデザインだけに留まらず、トマトのモチーフを用いた様々なイベントや仕掛け作り、人々の目に触れる機会を増やした結果、得票率が 3 倍に伸びた。

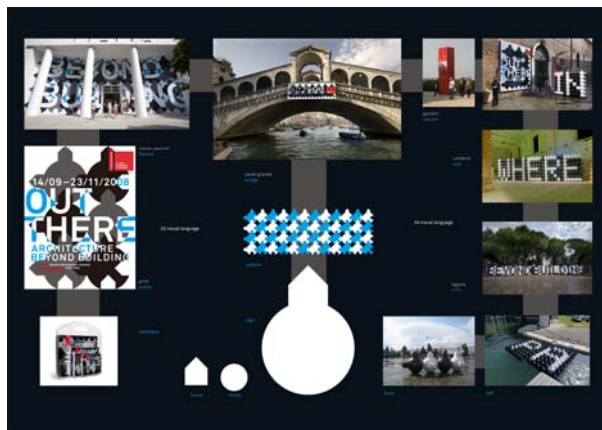


これまでの主な展覧会

I、Architecture Biennale in Venice (2008)

第11回ベネツィアビエンナーレ・建築展(2009年)の全てのグラフィックを担当。

平面のみならず、立体的な壁面状のサインも展開した。これは“地球(球体)”と“家(ベース型立方体)”とが交互に鎖のごとく繋がったデザインになっており、連綿と続く構造と連続感を表現している。



II、Power-Thonik Design (Shanghai Art Museum 2008)

トニック初の大規模個展。これまでに実施した様々なプロジェクトのアーカイブと共に、中国で生産された16枚のカーペットが展示された。これは中国の伝統的な地場産業であるカーペット製造業者とのコラボレーションによるもの。過去のプロジェクトで使用されたグラフィックが3x4mの巨大なメディアとして新たに生まれ変わった。鑑賞者が靴にビニールカバーをかけて自由にその上を歩くことができるという、体験型の作品でもある。

